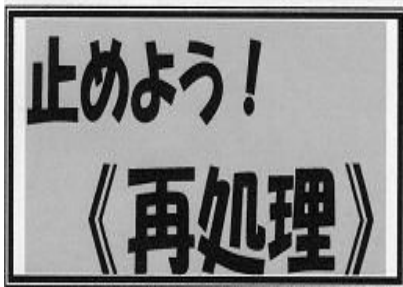


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会**（略称）三陸の海・岩手の会
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理 / 岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》
2022(令和 4年)
11月30日
第239号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

女川原発 1号機 天井クレーン走行部き裂事故への **質問状** 東北電力の回答と **意見交換会** **耐震安全, 更に高まる不安**



東北電力本店 会議室にて 11月2日

【質問状提出団体】

- 三陸の海を放射能から守る岩手の会
(岩手県盛岡市)
- 放射能から子どもを守る岩手県南・宮城県北の会
(岩手県一関市)
- 岩手有機農業研究会
(岩手県花巻市)
- 豊かな三陸の海を守る会
(岩手県宮古市)
- 女川原発の再稼働を許さない! みやぎアクション
(宮城県仙台市)
- みやぎ脱原発・風の会
(宮城県仙台市)

説明会議事録は当会ホームページに。

<http://sanriku.my.coocan.jp/221102toughokuQ&A.pdf>

九月一二日に、東北電力は「女川原発の一号機の状況」（八月分）を公表しましたが、内容は「原子炉建屋天井クレーンの走行部支持台座にき裂を8ヶ所確認。本年三月の地震によるものと思われる。国への報告を必要としない事象である」としました。「なぜ国への報告をせずに済ませられるのか？」など疑念が増すばかりでした。そこで当会は宮城二、岩手四の六市民団体と連名で「東北電力への質問状」を九月二七日に提出しました。

文面による回答を要請していましたが、東北電力から「口頭による電話回答にしたい」という連絡がありました。しかし宮城県の市民団体の皆さんの東北電力への申し入れで本店での口頭回答会議となりました。十一月二日、代表者八人が同社本店を訪問し、回答と説明を聞き、会社側への要望と意見交換を行いました。

質問状の原文(要約)

貴社のプレスリリースにより「本年三月一六日の地震（女川町で震度5）により1号機の原子炉建屋天井クレーン支持台座にき裂が入った」ことを知り驚いた。アメリカ原子力学会の論文に「女川原発は世界一地震の影響を受けやすい原発」との報告もあり、安全は大丈夫かと心配になり、実情を質問します。

質問への回答

内容（抜粋・要約）

「女川原発1号機の状況について」への質問

《何故国への報告をしなかったのか?》

市民団体の質問①②

今回の貴社発表の天井クレーン走行部支持台座のき裂について、2011年3・11大震災の翌年の二〇一二年六月七日に公表した箇所と同じ走行部の破損である。安全上重要な設備であるが、今回は何故「国への報告」を必要としないのか?

東北電力の回答

「『原子炉等規制法の第六二条の三の主務大臣への報告と実用炉規則』と、その『運用に関する訓令』」により三月の地震による亀裂は「該当クレーンを使用していなかった期間」であり、国への報告は必要ないと判断した。

私たちのコメント

一号機天井クレーンは

廃炉作業中の「待機中の」損傷にあたり国へ報告すべきであった。

《亀裂の大きさは?》

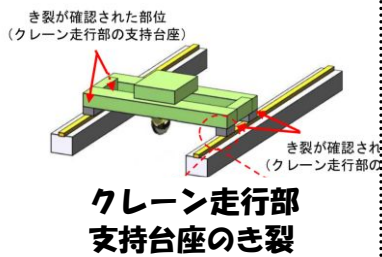
質問④ 本年七月八月の詳細点検による八箇所の支持台座のき裂の大きさなど教えてほしい。

回答 四箇所ある支持台座の各々二箇所でき裂を確認した。き裂の大きさは最大で長さが約60ミ、幅1ミ、深さが約10ミである。

コメント すべての台座にき裂があることは重大な機能不全である。

1号機天井クレーン走行部支持台座の亀裂説明 (2022年9月12日プレスリリース資料)

天井クレーンは、吊り上げ装置を対象物のウラン燃料束などの上に移動させ吊り上げ、冷却プールへ運び、出し入れ作業等に使用する。



クレーン走行部支持台座のき裂

《耐震基準580ガルが、367・5ガルの地震で損傷?》

質問⑤ き裂の原因が本年三月一六日の地震だとすると、その時の女川原発の震度と最大加速度を知りたい。

回答 女川原発における該当地震時の最大加速度は367・5ガル、震度は5強、観測場所は1号機建設時点での基準地震動は375ガル。2008年に580ガルに引き上げた。天井クレーンに変形・曲がり・落下の危険などないかの点検を行ったが、問題ないと判断した。

コメント 耐震580ガルのクレーンが367・5ガルの地震でき裂が入った。設計不良である。

《クレーンが、重量物吊り上げ時の地震だったなら?》

質問⑥ 天井クレーンのき裂は「クレーンを使用していない時に起

こった地震による」としているがもし地震が重量物を吊り上げ移動作業中だったならクレーンからの落下事故などは起こらないのか? **回答** クレーン本体の落下防止装置と吊り上げ物の落下防止装置は、別々の部品で構成され、両方の健全性を絶えず検査し確認しており心配ない。 **コメント** 吊り下げ時の大地震による「共振」に答えていない。

II 関連するその他

《3・11地震で損傷の軸受けは修理したのか?》

質問①③ 女川原発1号機の天井クレーンについて二〇一二年六月七日に「当該走行部の軸受けが損傷している事を確認した」と公表していた。その時の調査報告書を知りたい。

回答 二〇一二年に公表した『女川1号機天井クレーン走行部の軸受けの損傷調査』では、軸受けの損傷を東北地

方太平洋沖地震によるものと推定し、二〇一三年一〇月に地震の影響を受けにくい走行部の軸受けに交換した。なお調査報告書は公表していない。修理した天井クレーンは、定期点検を行いながら作業などで使用している。 **コメント** 情報を最大限公開すべきだ。それが福島原発事故の教訓である。

《現在の核燃料の所在量は?》

質問④ 女川原発各号機の炉心に入っているウラン燃料束の体数と上部のプールに貯蔵している使用済み燃料の体数と燃焼度を知りたい。

回答 現時点で各号とも炉心には使用済み燃料は挿入されていない。プールの使用済み燃料の体数は1号機821体約140ウラント、2号機は1263体約220ウラント、3号機は706体約120ウラント。燃焼度はいずれも管理値以下で使用し貯蔵している。

《何故地域住民へ知らせなかったのか?》

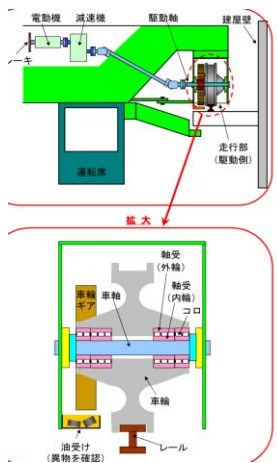
コメント 合計二七八〇体の使用済み核燃料が女川原発プールにある。福島事故四号機の上階プールには1535体があった。水が抜けると250キ圏が避難対象である。女川原発は建物自体の劣化が進んでおり危険である。

質問⑤ 本年六月七日に開催された第一六〇回女川原発環境保全監視協議会の資料には「三月一六日の福島沖地震後に確認された発電所設備等被害への対応状況」で「安全上重要な設備に異状なく周辺への放射性物質の影響もなかった」とあった。しかし、五月には、

安全上重要な機器である1号炉天井クレーン走行部支持台座に亀裂が発見されていた。なにも六月の監視協議会にも八月三日の同監視協議会にもその記載がなかった。何故か? **回答** 五月の定期点検でき裂を発見した。さらに七月・八月に詳細点検を実施して、原因を三月一六日の地震で生じた「ひび・割れ」と推定した。その上で九月一二日に公表した。これから開催予定の女川原発環境保全監視協議会には報告する。

コメント 五月には分かっていた安全上重要な機器である天井クレーンに関するき裂を地域の安全監視協議会へ報告しなかったのは重大な隠ぺい行為である。

3. 11大震災で損傷した天井クレーン走行部 (二〇一二年六月七日 プレスリリース)



軸受装置 (いわゆる「ベアリング」) 部分が破損